

令和6年度 第1回小松島市総合教育会議 議事録

1.日 時 令和7年2月18日(火)9時から

2.場 所 小松島市教育委員会会議室

3.出席者 中山市長

小野寺教育長, 福田教育委員, 眞井教育委員, 渡部教育委員, 福良教育委員

4.事務局 勢井副教育長, 高瀬教育次長, 山下学校課長, 牛田学校課主幹, 角谷生涯学習課長,
坂野生涯学習課長補佐, 西嶋教育政策課長, 中田教育政策課長補佐,
岩永秘書広報課長

5.概 要

(1) 開会

(2) 協議報告事項

①新小学校開校に向けた現在の状況と今後の取り組みについて

(3) 閉会

6.議事の経過 別紙のとおり

岩永秘書広報課長

ただ今から、「令和6年度第1回小松島市総合教育会議」を開催させていただきます。開会にあたりまして、中山市長からご挨拶を申し上げます。

中山市長

皆さんおはようございます。総合教育会議の開催にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。小野寺教育長をはじめ、教育委員の皆様には、日頃より、本市の教育の振興、さらには、子どもたちの健全育成にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。

さて、今年度は、11小学校のうち3校（櫛淵小、坂野小、和田島小）が、創立150周年という節目の年を迎えられました。私も、記念式典に参列させていただきましたが、それぞれの学校が、伝統を重んじ、地域に愛されながら子どもたちが成長し、長きにわたり、その歴史を重ねてこられたことを実感いたしました。

皆様ご承知のとおり、現在、本市では、学校再編を進めておりますが、それぞれの学校の素晴らしい伝統を引き継ぎ、更に発展させることができるよう今後も、安心安全で新しい時代に対応した教育環境の実現に向け、鋭意、努力してまいりたいと思っております。

それでは、本日は、新小学校開校に向けた現在の状況と今後の取り組みについてを協議報告事項としておりますので、委員の皆様から、忌憚ないご意見をいただくとともに、活発なご議論をお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしく願います。

岩永秘書広報課長

ありがとうございました。

本日の会議の議事録につきましては、終了後、事務局で作成いたしまして、後日、ホームページで公表する予定となっておりますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは、議題に入りたいと思いますが、総合教育会議につきましては、設置要綱に規定されておりますとおり、主催が市長でございますので、以降の会議の進行を市長にお願いしたいと思います。よろしく願います。

中山市長

それでは、会議次第に沿って進めてまいりたいと思います。

本日は冒頭挨拶でも申しましたが、「新小学校開校に向けた現在の状況と今後の取り組みについて」を議題といたしております。

令和9年度開校に向け、これからさらにハード面、ソフト面ともに計画に沿って、着実に進めていかなければなりません。その中で、今の状況を踏まえ、本日は2点について協議したいと考えております。

1点目は、「新小学校の施設を利用して行える新たな教育について」、2点目は、「校名について」、この2点につきまして、学校課より説明いたしまして、委員の皆様からのご意見をいただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

まず1点目の「新小学校の施設を利用して行える新たな教育について」お手元の平面図と図書スペースのイメージ図をお配りしておりますが、新小学校の施設を活用して、これまでにない新しい教育が、どのような形でできるのかということについて、学校課からご説明をさせていただきます。よろしく申し上げます。

牛田学校課主幹

それでは学校課よりこれからの教育について簡単にご説明させていただきます。着座にて失礼いたします。

お手元の資料の平面図、内観透視図、この2部をご覧ください。まず、図書スペースについてご説明いたします。平面図の2枚目、2階の平面図をご覧ください。

新小学校の児童玄関は2階になっております。児童が登校し、校内に入ると目の前にまず目に入るのが大きな図書スペースになります。

今回は、図書室として1室設けるのではなく、校舎の中央に図書スペースとして大きく配置しております。

また、図面上に2として囲んでいる成長の大階段は、2階から4階まで繋がっており、壁面に図書を並べ、児童が本を手に取りやすい環境としております。

内観透視図の1をご覧ください。この図は、2階から3階のイメージとなります。

児童が手に取ってすぐに本を読むスペースを設けたり、小空間のスペースとしデンを設けたりし、落ち着いた空間で読書に親しめるように計画しております。

内観透視図の2枚目をご覧ください。こちらにつきましては、3階から4階にかけてのイメージとなります。

各階段を上がった各フロアにも同様のスペースを設けております。3階4階とほぼ同じ仕様になっております。そちらにも読書に親しめる空間にする予定です。

また、天井は膜天井とし、採光を確保しつつ、温かい雰囲気読書に親しむ計画です。

最後に内観透視図3をご覧ください。こちらは4階から2階までを見下ろしたイメージとなります。中央の図書スペースから4階まで一体的に繋がりのある配置計画となっております。

また、開放的で見通しの良い空間となっております。このように児童の生活の中において、自然に本とふれあっていく計画をしております。

このような環境整備を行うことで、児童の読書活動がより豊かになるものと考えています。続きまして、各教室の活用方法についてご説明させていただきます。もう一度2階平面図の方にお戻りください。

今回の新小学校の普通教室と特別支援教室については、2階以上に配置しております。その各教室の仕様はこれまでの学校とは大きく違っております。

各学校の教室の多くは、廊下とは出入口のみの接続でしたが、今回は多連引きの扉を採用することで、大きく教室を開放して使用することができるようになっております。

これにより、これまで行われた学習形態以外の学習も可能となってきております。

1階の平面図3をご覧ください。校舎の1階には、交流スペースを設けております。

これからの教育には、同学年、異学年、地域の方、専門家など、多様な人と協働することが求めら

れています。

多様な異なる考え方が組み合わされており、よりよい学びを生み出せるように、様々な人との交流を考えていく必要がございます。

こういう習慣を通して児童に学年の実態に応じた資質や能力を身につけさせたいと考えております。以上でございます。

中山市長

はいありがとうございます。

ただいま学校課から新たな施設を、それを活用した新しい教育について説明をさせていただきましたが、これらにつきまして、委員の皆様からのご意見ご質問等をお伺いしたいと思っております。

福良委員

それでは感想っていうようなことで、実際こういうふうな図面にして、本当にいろいろ考えられて素晴らしいものが形になりつつあるなっていうふうな気がしております。

子供たちが手に取ってみたいくなるなっていうふうな木の温かみというのを感じられて、いいなっていうふうな気がします。

これにプラス、アナログ的なアナログというか実際ペーパーで取ってみると、それからもう一つこれからって、デジタル的なものを iPad なんかで読書したりとか、そういうふうなものも取り入れてくるっていうふうな、あるいはいろんな資料を探したりっていうふうな検索の意味合いも含まれてくるのかなっていうふうな気がします。

昔はそれこそコンピュータールームといいますかね、そういうふうなものもあったんですけども、この頃は Wi-Fi 環境が整っていて、全学校の Wi-Fi 環境も体育館も含めてきつとどこにでもそういうふうな環境があるんだろうなっていうふうなことで、すごいこうなんかワクワクするような空間ができつつあるなって、もうぜひ無事にこういうふうな学校ができるといいなっていう、それが感想でございます。

中山市長

はいありがとうございます。今のご意見に何か補足することはございますか。

デジタルサイネージとか準備をして、まあこれは備品のことなんだと思えますけど、どうですか。

山下学校課長

はい失礼します学校課です。

デジタル図書っていうふうなものもあると思うんですけども、大きな高校とかにちょっと話聞いてみたら、雑誌類は毎月変わりますので、そういうふうなものはものすごいやっぱり高校生は活用するという話も聞いてございますが、小学生はちょっと雑誌類となると違うかなというのは感じがしております。

例えばどんどん進んでる自治体もあると聞いておりますので、ちょっと研究しながらですね当初予算の部分もあるので関係課等とも協議しながら検討していきたいなと思っております。

よろしくお願いいたします。

福良委員

教科書も、先ほどのペーパーの状態とデジタルの教科書っていうふうな両方の導入みたいなのを考えられているやいうふうなことも言ってますし、図書もひよっとしたらっていうふうな、そういうふうな希望する、もちろんペーパーは大事だと思うんですけどもね。

じっくり読む素晴らしいものだと思うんですけども、将来的にはどういうふうな形になっていくかっていうのは私なんかもう想像もつかないんですけども、ひよっとしたらそういうふうな方法も進んでいく可能性もあるかなっていうふうな気がしております。予算が大きな率を占めるかなとは思いますが、感想です。

中山市長

はいありがとうございます。次は渡辺委員お願いします。

渡部委員

この間図書室のものを見まして、すごくワクワク感があって素晴らしいスペースでぜひ子どもたちの読書力を上げてもらえるかなと思います。

今子どもたちがとにかく夏休みの宿題にしても、一番最後に残ってやってるのは読書感想文です。とにかく活字を読まない。今あのさっき福良さんからもありましたけど、今でももう検索をして、何か調べるといようなことを活字でしないといような感じで、本当に本を読む子が少なくなってきたと思います。

なので、子どもに本を読むようにって言った中で、親が本を読む、子どもはやっぱり子どもも読んでいますけど、親自体も大変忙しいということで、そんなにもう読書しなさいと言わないというか、だからぜひもう学校でそういう図書に親しむ、あえて活字で想像力を小さいときからの想像力を育てるっていうか、私自身は例えば映画にしても、本を先に読んで感動して、素晴らしいなと思うものが映画になったとき、もうとっても薄っぺらくてぐっとするようなことが何度もありました。

だからやっぱりもう本を読んで、自分の中でこれはこうなのかあなのかって思う想像力っていうのは、いろんなことのこれからの子どもたちのモノを作り出す、いろんなものに、職業に就いても何にしても、基礎になると思うんで、これはどんな本も他と同じものと1年生から6年生までの子どもに沿ったちゃんとしたものを、興味があって引き込めるようなものを置いて読書の時間というのを確保してそれに対しての評価をするようなシステムを作っていくから、今も読書管理してると思うんですけど、もうちょっといろんなことに対する評価っていうか、それはすごく大事だろうと思います。

本を読みなさいよっていうのは絶対駄目だと思うので、そういうところを工夫をされて市としての取り組みなんかそういうものを評価をしてあげるようなことをすればいいと思います。

せっかくこんな素晴らしいものを作るんであれば大人でもちょっとと思うぐらいの感じですよ。

はい。楽しみにしています。

中山市長

はい、ありがとうございます。

そしたら眞井委員お願いします。

眞井委員

図面をもらったんですけど、僕らが小学校のときだったら図書室は図書室ってこう区切られたスペースだったんですけど、こういう教室も隣合わせて繋がってたりとか、図面のこういうスペースもあるということは、恐らく学年1年生から6年生と一緒に使えるような、使い方を想定して多分設計されたと思うんです。

そしたら図書室をいつ使うかってなると大体ね、休み時間とかに見たりするような感じだと思うんですけど、せっかくこういうね、こういうスペースがあるんだったら、それを休み時間だけしか使わないとやっぱ勿体ないので、何とか授業で、学年とか関係なく合同の、図書室の本を利用したような授業みたいなのを例えば何かテーマに沿って、この本で調べものをしながらこうするっていうようなこういう使い方が図書室でできたらいいかなと思うんです。

そしたら今の時代って若い人のコミュニケーション能力であったりとかこういうのがちょっと何でも携帯の文字とかこういうのに頼って、うまく口で面と向かってコミュニケーションが取りにくいっていう若い人も多いと聞くので、小学校のうちから1年生2年生の低学年の子が進んで5年生6年生の人にこれどこで調べたらいいとか積極的にコミュニケーションをとる、そしたら年長の学年の子は下の子に教えてあげながらするっていうのはすごいなんか、これから成長していくにつれて、人と会話したりする能力っていうのが結構身につくのかなと思うんで、この図書室を使って学年関係なく、交流しながら、授業ができるような、そういうのを考えてやっていただけたらいいかなと思います。

以上です。

中山市長

はいありがとうございます。

眞井委員のおっしゃった通りですね、この新たな教室の形や図書スペースまた交流スペースなどを利用した教育につきましては、昨年度の総合教育会議での話題もありました繋がりによる子供たちが育つ学校という基本コンセプトのもと定められた新しい点に対応した教育環境の整備や児童同士や、地域住民との繋がりを作るための機能を備えた施設整備を目指すといった基本方針を踏まえたものであると思っております。

これがこういう形で子どもたちの意識がどんどん高まっていけばと思います。

どうもありがとうございました。

福田委員

先ほどの学校課からのご説明を聞かせていただいて、まず小松島市の子どもたちの素晴らしい環境作りが出来上がってきたなというものすごく第一印象として感じました。

先ほど話題にも出ておりますけれども、図書室のオープンスペースを活用した図書室の、また4階

ですか、吹き抜けの環境ものびのびとした環境の中で図書室も充実もされているし、オープンスペースという意味ではその交流スペースとか仲良しテラスで授業とかってということもございますが、本当に今の時代にあった学校環境がこの中に実現していくのかなというふうなこういう新しい良い印象を持たせていただきました。子どもたちが通い始めて、将来の可能性をたくさん秘めた子どもたちが通える素晴らしい環境になっているのかなという気がいたしました。

一つ私個人的には南小松島小学校にも関わった経験もございますが、そのときもやはり一つ大きな有名な松がございますけれども、その松がどこ行ったのかなっていうまず一番にそれが目につきました。

確か校舎の配置は確かあそこの校舎の敷地の南の方ですかね、どちらにしてもあの場所は動かさないといけないのかなとは思いますが、そのままでいいですよちょっとよくわかりませんがここに位置づけがされておりますし、新旧混ざったそういうのも含めた上での新しい小松島の学校が出来上がっていくのかなと古いものを大切にしながら、伝統を踏まえた上でも、また新しい小松島の気配りのページにされた学校が出来上がっていく、そんなワクワク感をひしひしと感じさせていただきました。

これ順調にこの計画通り工事がまた進んでいきますように、ご期待申し上げて感想とさせていただきます。

ありがとうございました。

中山市長

はいどうもありがとうございました。

今のところの計画ではですね正門入ったところ、松はその位置で残すことになっております。

福田委員おっしゃるようにですね子どもたちの可能性をどんどん広げていくような学校になることを期待して、今計画を進めているところであります。

小野寺教育長

学校っていうものはどういうものかって考えたときに、自分たちが小さいときっていうのは家にはないけど学校に行けば楽しいことが、学校はとっても魅力がある、こういう感覚が学校に対する僕のイメージなんです。

それで今の子どもたちにとって、今の小松島市の学校は正直言ってトイレだって家の方が綺麗とか、そういうふうな話で言われました。

でも今回のこの新しい学校は、家がないものそれが学校には魅力としてあるっていうことが、僕はここに表れてるのかなと感じました。

最初のこの透視図の1枚目見たときに思ったことは、ハリー・ポッターじゃないけど、本当にね、本に囲まれるっていう空間でなかなかないですよ。そういう意味で当時の空間の中に本部が配置されているっていうことは子どもたちにとって、本っていうものに対しての感覚っていうものがすごく変わってくるんじゃないか、これはすごく魅力的だなと思います。

ただ、今まで関わってきて気づかなかったことなんですけど、さて、耐震はどないするかはまたちょっと考えていただけたらなと。

上に本があって楽しい、上に本があるっていう感覚がすごくいいんだけど、落ちてきたら困ったかないうのはちょっと思います。

これは今後内容ということで、それと先ほどから何度も話が出てますけれどもね。

中心にあるから1年生から6年生までの子どもたち、先生方がみんな通るっていうことですよ。

やっぱりこの魅力は交流なんですよね。みんなが通るんですよ。

今まで図書館っていうたら、先生方が本を管理することに必死、本を傷つけられたりなくなったりすることをメインに考えて指導している。

でも今回の新しい学校はそうではない。

先生方はサポートに入って子どもたちが自分たちで自主的に、よりよい学校を求めていくっていうふうなことが教育できるのかなと思っています。

管理をすることよりも、子どもたちが自分たちで自分たちのより良い生活とかより良い学習を求めていくっていうふうな場を提供していくっていうことが、これからの学校にとって一番の魅力じゃないのかな。

だから教室の廊下側を外すっていうことにも当然賛同しているわけですが、教科担任制であるとか、グループ担任制であるとかね、すごく工夫ができた新しい学習ができる。

個に応じた学習が2人ペア学習が今までやったら教室の中だけで行っていたものが、廊下で調べてもいいじゃないかタブレット持って、廊下でしながらこっちの教室の端の方でもしよってもいいじゃないか、それが認めていける、ないしは学年全体でするときは廊下で学年全体でしたらいいんじゃないか、こういうふうな本当にクリエイティブな事業が可能な校舎であって県下の中でもなかなかこの校舎はないというふうに私は思っています。

ただ、絶対にお問い合わせをしておくことは、これだけの魅力ある校舎を使うんは先生方です。

南中学校のときの反省で、先生方がこの校舎の良さを最大限に活用できる。

おそらく学級王国的な自分のテリトリーだけできたらいいっていう考え方の指導ではもたん。みんなで良くなっていくっていうふうな、そういうふうな教師集団っていうのを先生方にお問い合わせしていくっていうことが一番大事なのかなというふうに思っています。

以上です。

中山市長

はい、ありがとうございます。様々のご意見をいただきまして本当にありがとうございます。

概ねこの計画に賛同いただいたかと思いました。

渡辺先生おっしゃったようにですね、活字に触れ合う生活っていうのは非常に大事だと思います人間形成の場におきまして、と思っております。ただ、本市図書館もそうですけど蔵書の数をどうしていくかっていうのが大きな問題で、毎年300万から350万円ぐらいしか会計予算を取ってないので、今の小学校が学校小中学校の図書館の蔵書の量というのは、たかがしれてると思うので、今後の学校運営の中で、事務所の方でいかに増やしていくか興味を引くような本をいかに設置していくかということが今後の大きな課題の一つではないかなと思うのと、図書館もそうですけれども、先ほど教育長がおっしゃったように、地震のときに飛んでくる本をどうするかっていうことも大きな課題になるのではないかなと思っております。

また今後検討していただきたいと思っております。やはりいろんな交流の場、世代を超えた広域の場、地域を越えてですね、学校から地域の人たちが触れ合えるような学校になってですね、ますます子どもたちの未来明るい未来へ繋がるような校舎または教育をしていただくことが実現するのかな、そういうふうな計画がいろんなところに散りばめられているのではないかなと思っておりますので1日も早くこの計画が着実に進むようにですね、皆さんのこれからも応援をいただきたいと思っております。

よろしく申し上げます。

それでは2点目の校名について、に進みたいと思います。

これにつきましては、344の応募があった中、現在3候補に絞られております。なお、この総合教育会議の後、委員の皆様にご意見を改めて協議していただきまして、校名を決定することとさせていただきますので、3候補に至った経緯の選定理由につきまして、学校課より詳しく説明をさせていただきます。委員の皆様のご意見を伺うとともに、できればまた先ほど同様にですねお一人お一人のご意見をいただく中で候補を一ついただければと存じますので、よろしくお願い申し上げます。それでは、学校課申し上げます。

牛田学校課主幹

失礼いたします。お手元に仮称 新小松島小学校校名案と書かれたA3の資料をご覧ください。

これまでの校名の選定についての経緯をご説明させていただきます。

昨年9月5日から10月20日まで校名募集を行ったところ、県内外より344の応募がございました。その内訳といたしましては、未就学児4名、小学生150名、中学生68名、一般122名の応募がございました。

さらにその応募の内容といたしましては、読み方190種類表記215種類ございました。

それらを11月27日に行いました。

総務部会で6候補に、さらに12月19日の第2回学校再編準備会議で審議および投票を行うことで、現在資料にございます3候補を、仮称新小松島小学校の校名候補として挙げさせていただいております。

資料のご説明をいたします。

資料の緑色で着色しているところにつきましては、応募者の校名表記、候補数、主な応募理由について記載しております。

資料の青色で着色しているところにつきましては、第3回総務部会でのご意見をまとめてございます。

資料の黄色オレンジっぽくなっているところで着色されておりますところは、第2回学校再編準備会議で投票を行った際の得票数を表しております。

この校名を制定するにあたり、子どもたちが仲良く生き生きと活動するにふさわしい内容であること、地域内外の住民に長く愛され、親しみやすい構造であること、読みやすく子どもたちが書きやすい校名であること、県内に同じ名前の学校がないことという観点のもと、選考を行いました。

それでは現在候補として挙げられております校名について一つずつご説明いたします。

一つ目の候補”ハナミズキ”でございます。このハナミズキは市の花でもあることから、多くの応

募がございました。

表記は様々で、ひらがなのみ、漢字かなまじり、漢字のみ、地名を指す小松島がついたものが応募されておりました。

また総務部会においても多くの票を集める結果となっております。

総務部会の意見を、白丸と黒丸表記で挙げさせていただいております。

白丸表記はどちらかといえば肯定的なご意見、黒丸表記はどちらかといえば否定的なご意見として分類させていただきました。

肯定的なご意見といたしまして、市の花ハナミズキの採用も良いのではないかと。ハナミズキは子どもを考えた理由が多くありました。

どちらかといえば肯定的な意見といたしましては、ハナミズキを採用すると次はどうなるのか。ヤマモモになるのか。というようなご意見。

また、ハナミズキは愛称のような、ニックネームのような感じで感じられてしまう。

ハナミズキは校章や校歌に取り入れればよいのではないかと。

というふうなご意見がございました。

準備会議の得票数といたしましては、4票と2番目に多い結果となっております。

二つ目の候補”小松島”でございます。

この小松島は最も多くの応募がございました。

表記はひらがなのみ、また現在ある小松島小学校と同様の漢字のみの表記が応募されておりました。

肯定的なご意見といたしましては、小松島小学校は小松島町に位置しているため、新しい校名にしても問題ないのではないかと。

小松島小学校は、新しい学校としての意味合いを理解してもらえらるのなら、この校名が望ましいのではないかと。

否定的なご意見として、南小松島小学校の位置に小松島小学校ができるともめるのではないかと。

また、今ある校名を採用すると使われていない校名がある学校からすれば不満なのではないかと。

というふうなご意見が寄せられております。

準備会議の得票数といたしましては、6票と最も多い結果となっております。

三つ目の候補”中央”でございます。

こちらの中央の表記は漢字のみの表記が応募されておりました。

肯定的なご意見といたしましては、小松島市の中心部にあるから中央が入っても良いのではないかと。

否定的なご意見といたしまして、南部の再編について、中央に対して南部と決まってしまうのではないかと。

そういう意見がございました。

準備会議の得票数といたしまして、3票と3番目に多い結果となっております。

総務部会では、新小学校の校名選定の全体的な意見として、公立の小学校ですので、地名を校名に入れると位置関係がわかりやすい。

シンプルで小松島らしい校名が良い。紛らわしさのない校名が良い。

校名が長いと小学生が書きづらい。私立ではなく公立なので地名のついた校名が相応しいといった意見が出てございました。

最後に、準備会議では、小松島という地名を取り入れた方がわかりやすいと言われるのではないかと。小松島小学校になるのであればひらがな表記も良いのではないかと。未来を見据えた学校名として決定してもらいたいというご意見を頂戴しております。以上でございます。

中山市長

ありがとうございます。ただいま学校課より説明いたしました経緯によりまして、最終候補として選ばれたのが、「ハナミズキ」「コマツシマ」「チュウオウ」の3候補となっております。それぞれに肯定的な意見、否定的な意見があるようですが、3候補いずれも、読み書きしやすく、子どもたちをはじめ、地域の方々にも末永く愛され親しまれるような校名となっております。選ぶのが大変難しいかとは存じますが、委員の皆様方のご意見を伺いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

福良委員

本当によく考えられて、選定に携わる方々も工夫したんじゃないかなというふうな気がします。結論から言いますと、私も個人的な意見ですけれども、いろいろ応募理由というか意見の中にもあったんですけれども、やっぱり漢字の小松島小学校っていうふうなのが相応しいのではないかなというふうな気がします。やはり理由にもありましたけれども、公立であるっていうふうなこと、それと小松島町に位置しているというふうなこと。私は芝田小学校出身ですけれども芝田小学校も芝生と田野、町名からこういった名前っていうふうなことも聞いております。芝田小学校の名前がなくなるっていうのは寂しく卒業生としては思うんですけれども、それは他の学校の方も同じかなとは思ってますけれども、逆に小松島小学校という名前がなくなったらさあどうなるんだろうかなってもう逆に寂しい感じも。新しくできる学校以外に小松島小学校と名乗れる学校っていうふうなもの相応しさっていうふうなのはどうかかなっていうふうな気もして、やはり小松島小学校っていうシンプルでかつ小松島を表している位置的にも相応しいというふうなことで個人的な部分も多い大きいんですけれども、漢字の小松島小学校というふうな校名が相応しいのではないかなと思います。

中山市長

ありがとうございました。それでは渡辺委員のほうからお願いします。

渡部委員

この全体の資料を見させていただいて、やっぱりもう〇〇先生と一緒に、漢字の小松島小学校の表記がやっぱりなんていうかきちんと入っていたらいいんですけど、小松島市が存続する以上、やっぱり小松島という名前は絶対残すべきだと思うので、一応ここにも私立だったらまた違うと思うんですけど、やっぱりしっかりとした感じというか、市の存続の関係でやっぱりこの小松島小学校の

漢字表記がいいと思いました。

これアンケート取ってる人数自体は少ないんですけど、やっぱり少ない中でも一番多いのはやっぱりそういう全体の意見だろうと思いますし私自身もこの小松島小学校の漢字表記でいいと思いました。

中山市長

はいどうもありがとうございます。

それでは眞井委員お願いします。

眞井委員

僕も個人的には最初は、せっかく新しい新しい学校を作るんだったら、もう今までと全然違う名前をつけたらいいんじゃないかと思ってハナミズキとかいいかなと思っただけですけど、やっぱり将来これから30年後、40年後のことで考えたときにこれはあんまりよくないことなんですけど、学校側の数が減るっていうことがあったりとか、逆に学校が増える可能性も子どもの数が増えて、学校は新しい学校また作るってなったときに、やっぱりわかりやすい名前の方がシンプルで先のことを考えたらいんじゃないかなと思って、僕もやっぱり小松島小学校がいいと思います。

表記に関してはもう本当漢字にするかひらがなにするかって言われたときに書きやすいとかでなくて、どうしてもひらがなの方が柔らかくていいっていう人もいれば、漢字の方が看板にしたときにかっこいいとか、これはもう僕は漢字がいいかひらがながいいかっていうのはちょっともう決めづらいうるか、その辺はもうこれから話し合いになるんでしょうけど、僕はもう表記に関してはもうどっちでもいいっていうとあれですけど、個人的にはやっぱり見た目的には漢字の方がいいのかなとは思っています。

以上です。

中山市長

ありがとうございます。

それでは福田委員お願いします。

福田委員

はい、お願いします。

先ほど施設の方のときも申し上げたんですが、やっぱりこの新小学校の出発にあたってはやっぱり小松島の新しい出発なのかなという、それがまず第1印象としてそんなつもりで期待をしているところなんですけれども、そういう意味でも、今現在11小学校そこから新しい小学校が生まれてくる。小松島を代表してくる小学校が第一号が生まれるんだっていう思いからすると、これまでの地名を大事にしたいなと思いますし、それからもう既に中学校で言うと小松島中学校、小松島南中学校、小松島という名前を使っております。

県立ではありますが、小松島高校もでございます。

やはりバスを代表するという観点から考えても大事な事なのかなというふうに思っております。

それからもう一つの細かいちょっと中央小学校っていうの名前につきましてははですね、私はつつ

いもう既に死語になりましたけど、表日本裏日本という言葉が昔ありました。

それをちょっと連想してしまうんですね。

中央っていうと次に心配事ができてくる二番目の新しい小学校。

こちらも仮に中央だったら向こうはちょっとその表日本裏日本と同じような連想を今してしまいました。

そんなことも含めて、将来的にやっぱり将来を展望しながら、新しい小学校の名前も考えていくべきなのかな、未来を見据えて、しかも小松島の新しい従来の小学校から新しい小学校に生まれていく。

そんな意味で地名を大事にした命名ができればなというふうな感じをしました。以上です。

中山市長

はいありがとうございます。

それでは教育長お願いします。

小野寺教育長

議員の皆様方のね、ご意見と重複する部分があるんですけども、私最初、ハナミズキが良い温かいなと言って、非常に耳あたりもいいし、小学校の子どもたちにとったらいいかなってすごく思いました。

でも、それからずっといろんなことを考えてきました。

だって、校名をつけるときに東京とかの方に行くとな、やっぱり第1第2とか第3とかいうふうなつけ方とかを今だにしているところがあります。

これはね、どんどん増えているのですよ。人口が。

学校数も増えてきたらそういう付け方になっていく。なるほどな。この場にうちの現状はさっきおっしゃったけど、増えるってことは考えにくい。

そこから4校ないしはその後は見直しをかける。そう考えたら、やっぱり減っていく学校の中での校名になってくるってこと。そうなってくると。

先ほどから委員の皆さんもおっしゃっているような小松島を代表する北部の代表校になるのは明確なんですよ。

一番大きいのだから。ここにやっぱり夢と希望を持たしていくっていうことは、やっぱ小松島を代表するっていう意味合いを考えたら、そういう名称っていうものを検証していくことの必要性があるのかな。

ただ、先ほど意見の中にあつた、今ある校名を採用すると使われていない校名がある学校からすれば不満なのではないかと、こういうご意見があります。

でもね、この意見を払拭するぐらい新しい学校に魅力を持たせるべきです。

リスタートを切ってこんなにいい学校を作るんだから、新しい学校を作っていくんだからというふうな形があれば、この部分の否定的な意見にはお答えできるのではないのかな。

これ事務局ちょっと確認なんですけれども、校章とか校歌についてはどう考えとるんですか。

牛田学校課主幹

校章・校歌については新しい小学校になるということですので、新しいものを設定してスタートを切るというようなイメージでおります。

小野寺教育長

ということを考えたら、名前が同じであろうと全く新しいコンセプトで新しい学校を作るっていうふうな意味合いの校名でいいのかなと思っています。

これひらがな表記がええかなというのもごっつい悩みました。

それをね何人かの方に聞いたときにね、もってきた答えがね、教育長さん小松島の名前のルーツって知ってますかって。

これ平安時代に戻るんですけど、諸説あるんですけども、やっぱり平安時代の京都の仁和寺の荘園っていうふうなところからスタートして、ここはコマツっていう言葉が入ってるんですね。

これ漢字表記なんですよ実は。あの時代ですから。あんだね、漢字っていうのは大切な思いが入ったんですよと言われました。

そういうふうなものを考えていったらいい名前になるのかなっていうふうには思っております。

以上でございます。

中山市長

ありがとうございます。先ほども全ての委員の皆様からですね、漢字表記の小松島でいいんじゃないかなっていうご提案をいただきました。

冒頭で申し上げたようにですね、この会議の後、改めて協議いたしまして、今回決定することとしておりますのでよろしくお願いしたいと思います。

本日の議事につきましては終了いたしました。

貴重なご意見をいただきありがとうございます。

開校に向け、工事の進捗と並行して、通学支援や通学路に関する事、工事期間中の体育館や運動場の利用に関する事、送迎対応スペースや駐車場に関する事など、これから進めていかなければならない様々な課題が山積しております。

本市の現在の財政状況は、大変厳しい状況ではございますが、新小学校開校は、市の最優先すべき事業として、教育委員会だけではなく、全庁が連携し、これら課題に取り組んでいるところであります。

委員の皆様方におかれましても、随時、ご相談ご報告をさせていただきながら、これら課題を一つずつ、適正かつ迅速に解消し、1日も早く子ども達が、新しい学校において、安全で、楽しく元気に笑顔あふれる学校生活を送ることができ、保護者の皆様や地域の皆様にも安心していただけるよう努めてまいりますので、引き続きご支援ご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、本日の報告及び協議を踏まえ、今後もこれまでの方針に基づき、整備を進めさせていただくことにご同意いただけますでしょうか？

委員

はい。

中山市長

ありがとうございます。それではこれもちまして、令和 6 年度小松島市総合教育会議を終了いたします。

本日は、誠にありがとうございました。

では事務局からお願いします。

岩永秘書広報課長

教育委員会の皆様、本日はありがとうございました。以上をもちまして、令和 6 年度小松島市総合教育会議を閉会いたします。本日はお世話になりました。